

Neuroscience 2017 参加報告

生命環境科学系 博士後期課程 2年 恵谷隆英

この度「博士・修士課程学生のための国際研究集会渡航助成」の支援を受け、2017年11月12日から2日間、アメリカ合衆国ワシントンD.C.で開催された Neuroscience 2017に参加した。本国際会議は毎年およそ30,000人が参加する大規模な神経科学の国際会議であり、現場に着くなり会場の広さ、そして参加者の多さに圧倒された。

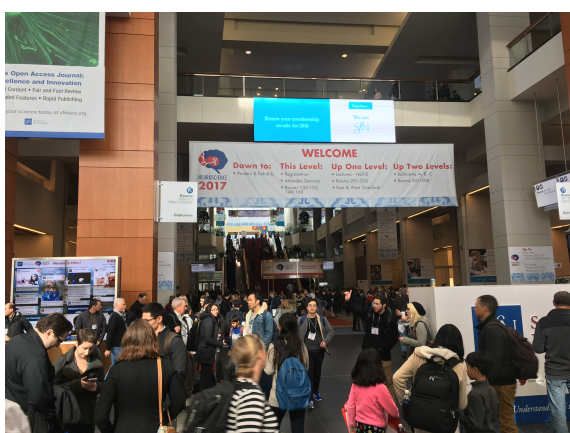


写真1：会場の入口



写真2：ポスター発表の会場

私は12日に「Rhythm and Timing」というセクションにおいて、ポスター発表を行った。持ち時間は4時間と非常に長かったにも関わらず、ほとんど途切れることなく多くの研究者が立ち寄ってくれ、充実したディスカッションをすることができた。また、私にとって憧れの対象である研究者も多く参加しており、第一線で活躍する彼らの意見を直接伺えたことは勉強になるだけでなく、大きな励みとなった。唯一残念だったのは、同じセクションで発表している研究を見に行くことができなかった点である。ポスター発表の場合、近い分野の研究はどうしても発表の時間帯が被ってしまうため仕方がないことではあるが、今回は特に興味を惹く演題が多かったため、少し心残りとなった。代わりに翌日は、「記憶力に対する低強度運動の効果」など、普段は接する機会の少ない分野の発表を積極的に見て回った。研究対象は異なるものの、用いている解析手法など、自身の研究にも援用できそうなアイデアをいくつか得ることができた。

Neuroscience への参加は今回が初めてであったが、実りのある2日間となった。本国際会議で得られた知見および経験を活かし、より良い研究ができるように努めていきたい。